

静岡市 SDGs 未来都市計画

静岡市

< 目次 >

1 全体計画

1.1 将来ビジョン

- (1) 地域の実態.....2
- (2) 2030年のあるべき姿.....5
- (3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール.....9

1.2 自治体SDGsの推進に資する取組

- (1) 自治体SDGsの推進に資する取組の概要.....13
- (2) 自治体SDGsの情報発信・普及啓発策.....18

1.3 推進体制

- (1) 各種計画への反映状況.....21
- (2) 行政体内部の執行体制.....24
- (3) ステークホルダーとの連携.....26

1. 全体計画

1.1 将来ビジョン

(1) 地域の実態

(地域特性)

本市は、平成の大合併に先駆け、2003年に旧静岡市及び旧清水市が合併して誕生した。

その後、2005年には全国で14番目の政令指定都市への移行を果たし、2007年には庵原郡蒲原町と、2008年には由比町と合併し現在の姿を形作ってきたとともに、静岡県事務処理特例条例により多くの県知事権限が移譲されるなど、自律型の都市を目指し、我が国の地方分権を牽引してきた都市である。

首都圏と中京圏との中間に位置する本市は、温暖な気候にも恵まれ、古くから東西交通の要衝として発展してきた。

その歴史は、登呂の時代より始まり、奈良時代に国府が置かれ、戦国時代には今川氏の城下町として栄えた。また、戦乱の世を治めた徳川家康公がこの地で大御所として幕府政治の采配を振るい、幕末には、最後の将軍徳川慶喜公が移住するなど、徳川家縁の城下町である。

一方、市域の面積は約1,411k㎡と大変広大であり、南には、水深2,500m、日本一深い湾である駿河湾を臨み、長く穏やかな海岸線と霊峰富士に向かって広がる特定重要港湾清水港が海とのふれあいの空間を形成している。

北には、3,000m級の峰々が連なる南アルプスがそびえ、その裾野に広がる森林は、市域の76%を占め、清らかな水を育み、源流から河口までが市域内で完結する1級河川安倍川をはじめ、藁科川、興津川などの河川は、日本有数の清流を誇っている。

山と海とをつなぐ河川がもたらす山の滋養が育んだ駿河湾の豊かな恵みは、市民の食卓を彩るほか、缶詰に代表される水産加工業の発展の基礎となってきた。

さらに、その缶詰は、中山間地で盛んに栽培されている茶とともに、明治から昭和にかけて、清水港の代表的な輸出品目となり、地域はもとより、我が国の経済発展の原動力となっていた。

このように本市は、長い歴史に生まれ、特に、明治期以降は、輸送路整備や、市街地における茶の集積機能の充実など、山と海の生活を市街地を経由して結び、世界に直接開かれたことにより発展してきた都市でもある。

多彩で広大な市域を誇る本市であるが、市民の約9割が集まる人口集中地区(DID地区)の面積は約127k㎡と市域面積の約9%に過ぎないが、その人口密度は5,981.7人(2015年国勢調査)と稠密な市街地を形成している。その中心市街地は、政令指定都市であり静岡県の県庁所在地でもあることに相応しく、行政、経済、情報、文教等の都市機能も厚く集積している。

産業面に目を移すと、現在に至るまで全国一の茶の集散地となっているほか、製造品出荷額約1.8兆円(2014年工業統計、指定都市20市中第11位)、商業販売額約3.4兆円(2014年商業統計、同第16位)と第1次産業から第3次産業まで、それぞれが大きな規模を誇りつつもバランスよく集積している。

また、古くから東西交通の要衝としてヒト、モノ、情報など様々な価値が集まってきたという歴史に培われた市民性、都市規模や産業構造、さらには地理的条件などから、多くの企業が、本市をテストマーケティングの地として選んできた。

市民生活の面では、様々な場面でSDGsに繋がる活動が活発にされている。

その代表的なものとして、世界の共通言語である「サッカー」がある。

本市は日本一のサッカーどころとして知られるが、その輝かしい栄光を創出したのは、ほぼ小学校区単位にあるサッカー少年団であるといっても過言ではない。

少年団の活動は、自らの余暇を、サッカーの指導に費やす地域の指導者らのボランティアに支えられ、その指導は、技術面のみならず、様々な面から子供の成長の支援につながっている。

また、選手の父兄に加え卒団した中高生も運営に携わり、毎年、国内外から約 300 チーム、3,500 人超の選手を集めて開催される全国少年少女草サッカー大会の存在も忘れてはならない。

草サッカー大会、民間企業が主催するユース年代の国際大会や清水エスパルスのホームゲームとも相俟って、サッカーは、本市の有力な観光資源にもなっている。

この他にも、シニアリーグに興じる高齢者や、休日にサッカーで汗を流す社会人など、サッカーは、本市が目指す「健康長寿のまち」の実現にも大きく貢献している。

2002FIFAサッカーワールドカップ日韓大会で、ロシアチームが旧清水市で行ったキャンプを契機に、エルミタージュ美術館における名誉市民の故芹沢銈介氏の特別展の開催、ホッキョクグマ「ロッシー」のレニングラード動物園からの来静などロシアとの交流が盛んになったように、サッカーは、本市の国際交流にも大きく貢献してきた。

このように、市内の様々な力を集結し進めている本市におけるサッカーへの取組は、SDGsが掲げる目標の多くに好影響を及ぼしている。

また、本市における防災対策もSDGs的なものとしてあげることができる。

東海地震の可能性が指摘されてきた本市にあっては、単位自治会・町内会を基本に、自主防災組織が、さらに、その上部団体として、発災時に避難所となる小学校区を基本とする連合自主防災組織も設置されている。

避難所は、自主防災組織が運営することとされており、多くの自主防災組織では、共助の精神に則り、日常的に様々な活動に取り組んでいる。

特に、地域防災訓練は、自主防災組織を中心に避難所の施設管理者や医師、市職員を交えた企画会議から訓練の実施までを自主防災組織が主体的に行い、訓練当日は、多くの地域住民が参加している。さらに、訓練には、発災時に貴重な戦力として期待されている中学生や高校生も、地域の担い手としての自覚のもと数多く参加している。

SDGs11.bも「あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う」としているが、本市にあっては、市民レベルでの防災意識も高く浸透している。

この他にも、例えば、今年で開催 27 回目を数え、本市における秋の風物詩ともなっている「大道芸ワールドカップ」は、市民中心の運営委員会により企画され、数多くの市民ボランティアに支えられ運営されている。市内外から 205 万人の観客を集め(2017 年 11 月)、さらに、市内からは大道芸人を志す若者も出てきているように、大道芸ワールドカップは、目標8の達成に向け、目標 17 が貢

献している好事例となっている。

(今後取り組む課題)

このように、市民生活の中にSDGsに通じる多くの活動を見ることができるが、一方で、SDGsへの取組を始めるにあたり行った市民認知度調査(H29.10、市民 92 人)において、SDGsを知っていると回答は2%に過ぎなかったことが課題としてあげることができる。

さらに、自然環境に恵まれ、温暖な気候と高次都市機能の中、活発な経済活動や市民活動が行われている本市であるが、現在、大きな問題も抱えている。

本市の人口は、1990 年をピークに年々減少傾向にあり、国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、2010 年に約 716 千人あった人口が、2030 年には約 623 千人、2040 年には約 599 千人となり、30 年間で約 22%減少するとされている。

NPO法人ふるさと回帰支援センター(東京都有楽町)への移住相談ブースの設置や新幹線通学費貸与事業などの独自の施策を進め、2017 年には 47 年ぶりに人口社会増に転じるという明るい兆しもあるが、自然減圧力は強烈で、人口維持にまでは至っていない。

人口減少の最大の問題点は、地域経済を縮小させ、地域の活力を低下させ、まちを衰退させていくことにある。

そのため、人口減少対策として、単なる自然減対策や社会減対策にとどまらず、交流人口増加策にまで視野を広げ、重層的、複合的な対策を進めている。例えば、6本の戦略の柱を定めた「静岡市総合戦略」の1本目の柱に、国の総合戦略にはない本市独自の方向性として、「まちの存在感を高め、交流人口を増やす」という戦略を掲げている。

それを強力に押し進めるため、圏域人口約 120 万人を抱える静岡県中部5市2町(静岡市、島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町、川根本町)との間で「しずおか中部連携中枢都市圏」を形成し、地域連携DMO推進事業やアンテナショップ開設事業等に取り組んでいる。

今後、これらの取組をさらに加速させていく。

また、2014 年 12 月に議決を得た「静岡市基本構想」は、目標年次を定めることなく『『世界に輝く静岡』の実現』をまちづくりの目標として掲げている。

そのため、前述した、三保松原の世界文化遺産の構成資産への登録や南アルプスのユネスコエコパーク、ロシアとの関係に加え、国連軍縮会議の開催(2012 年)やスペイン国王の来静(2017 年)など、世界を意識した施策にも取り組んできた。

一方、足元から『『世界に輝く静岡』の実現』を具現化すべく、特に優先すべき5つの施策群を5大構想(詳細は次項参照)に集約し、その推進に重点的に予算を配分している。

5大構想は、いずれも地域経済の活性化に資するものではあるが、この5大構想にSDGsを組み込み『『世界に輝く静岡』の実現』への加速力に繋げていくことを、2018 年2月議会における施政方針演説で、市長が高らかに宣言したところである。

(2) 2030年のあるべき姿

【2030年のあるべき姿】

前述した通り、静岡市基本構想が定める『世界に輝く静岡』の実現が2030年のあるべき姿であり、その実現に向け5大構想を強力に進めているところであるが、その5大構想が成就した姿こそが、2030年における本市の具体像であるといえることができる。

なお、SDGsへの取組を始めるにあたり行った市民アンケート調査(H29.11、市民110人)における設問「本市が取り組むべきSDGs目標」に対する回答の多くは、5大構想の推進にひもづけられるものであった。

表1 市に取り組んでほしいSDGsの目標と該当する5大構想

市に取り組んでほしいSDGsの目標(回答者数)	該当する5大構想
3:すべての人に健康と福祉を(63)	「健康長寿のまち」の推進
8:働きがいも経済成長も(35)	「まちは劇場」の推進
4:質の高い教育をみんなに(54)	教育文化の拠点づくり
16:平和と公正をすべての人に(21)	歴史文化の拠点づくり
14:海の豊かさを守ろう(46)	海洋文化の拠点づくり

(回答者総数:545人)

1 「健康長寿のまち」の推進

(1)SDGsを踏まえての2030年の姿

全ての市民が、いつまでも健康で人生を楽しむことができ、また、住み慣れた「自宅ですっと」、人生の最後まで、自分らしく幸せに暮らすことができるまちを実現する。

本構想は、SDGs目標3「すべての人に健康と福祉を」に直結するものである。

世界に目を向けると、アジア諸国では急速に高齢化が進み、我が国の高齢化対策への関心が非常に高い。

このため、「健康長寿のまち」の推進により確立した静岡型の取組を内外に向け発信し、SDGs目標3の達成に大きく貢献している姿を、2030年における本市の姿として描く。

(2)方 針

① 健康寿命75歳への延伸

徳川家康公の健康寿命の秘訣と言われる「知への好奇心(社会参加)」、「食事」、「運動」を柱として、市民一人ひとりが、これらを日常的に取り入れやすい都市環境づくりと全ての市民の自発的な健康づくりの支援を推進する。

② 自宅ですっと暮らせるまちづくり

高齢者や障がい者をはじめ、誰一人取り残すことなく自宅ですっと暮らせるまちの実現に向け、医療・介護等の専門職や地域の市民の連携により、切れ目のない医療・介護や介護予防、生活支援といった支援の体制を構築するとともに、全ての市民に積極的に情報発信することで、地域に根差した静岡型地域包括ケアシステムの構築を目指す。

2 「まちは劇場」の推進

(1)SDGsを踏まえての2030年の姿

文化・クリエイティブ活動への支援や、公共空間の利活用を通じて、大道芸で培ってきた市民の創造性や感性を磨き上げ、わくわくドキドキの笑顔溢れるまちとすることで、交流人口の増加を図り、地域経済の活性化に繋げる。

本構想は、SDGs目標4「質の高い教育をみんなに」を意識しつつ、目標8「働きがいも経済成長も」の達成を目指すものである。

また、本市の市街地を舞台に、世界中のパフォーマーの参加の下、毎年秋に開催する「大道芸ワールドカップ in 静岡」は、平成31年度に28回目の開催を迎える。大道芸ワールドカップは、市内外からの来場者約200万人を誇る、本市の大きな観光資源となっている。

そこで、世界に目を向けて本構想を見つめなおすと、「大道芸ワールドカップ in 静岡」をはじめ、「静岡まつり」、「安倍川花火大会」、「富士山世界コスプレ大会」などはもとより、四季折々、日常的にまちなかで文化・クリエイティブ活動に触れ合い、「歩いて楽しいまち」としてインバウンドで賑わっている姿を描くこともできる。

このため、本市のまち全体の賑わいを創出するイベントに世界中から人々が集まり、本市においてSDGs目標8が達成されている姿を、2030年における本市の姿として描く。

(2) 方針

① わくわくドキドキの仕掛けづくりと人材育成

全ての市民がまちなかに来るたびにわくわくドキドキ感を抱くことができる、非日常空間を演出する仕掛けを創るとともに、担い手となる人材育成を行うことにより、市民主体の創造的活動を促し、本市の魅力の向上と市外からの来街者の増加を図り、地域経済の活性化に繋げる。

② 公共空間の積極的な活用による文化・クリエイティブ活動の「舞台」の創出

公共的都市空間における文化・クリエイティブ活動の「舞台」を創出することで、大道芸に代表される世界レベルのパフォーマンスに身近に触れる機会を増やすとともに、パフォーマーにとって憧れの地となるような地域資産の魅力向上を図る。

3 教育文化の拠点づくり【草薙・東静岡副都心】

(1) SDGsを踏まえての2030年の姿

副都心としての拠点整備を進めてきた東静岡と草薙駅周辺地区を、教育文化の香りが漂い、多くの若者が集まり、交流が生まれる拠点とし、新たな賑わい、地域活性化を実現する。

本構想は、草薙地区における学生と地域との協働によるまちづくりの面から目標8「働きがいも経済成長も」、目標11「住み続けられるまちづくり」を見据えたものとなっている。

ここで、「教育文化拠点」の言葉に相応しい目標4「質の高い教育をみんなに」に照らして本構想を見つめなおすと、本市における「高等教育のあり方の検討」に目が向いていく。

Society5.0が急速に進み、人生100年時代が実現しようとする現在、リカレント教育の重要性が高まってきている。さらに、専門職大学が制度化されるなど、我が国の高等教育の形も大きく変わろうとしている。

そこで、本市が求めるべき「高等教育のあり方」を検討することとし、その議論が深まる中で、多くの若者が集い、交流が生まれるとともに、老若男女を問わず、誰もが望むリカレント教育にアクセスできる状況を、2030年の本市の姿として描く。

(2) 方針

① 教育文化の香りが漂う都市空間の創造

文化スポーツの殿堂の整備を目指す東静岡地区と、大学や図書館、美術館などが集積し、文教エリアとしての特性を有する草薙地区に、教育文化の新たな価値を創造し、地域経済の活性

化を果たす。

② 高等教育をはじめとした学習機会の提供とシチズンシップに富んだ人材の養成

多様な高等教育を始め、生涯にわたって学習できる機会を充実させるとともに、積極的にまちづくりに関わって地域に貢献しようとする公共意識の高い人材の養成や、市民参画を促す施策を進める。

4 歴史文化の拠点づくり【静岡都心】

(1) SDGsを踏まえての 2030 年の姿

駿府城公園を始めとする歴史的名所を活用しながら、静岡都心の賑わいを創出することで、交流人口の増加を図るとともに、地域経済の活性化を実現する。

本構想は、SDGs目標8「働きがいも経済成長も」の達成を目指すものである。

一方、本構想の中核を成す、博物館機能を備えた歴史文化施設も整備が進められており、その観点からは、目標4「質の高い教育をみんなに」にも通じる構想でもある。

歴史文化施設では、郷土史の展示に加え、本市縁の徳川家康公を顕彰することとなるが、家康公は、長く続いた戦乱の世に終止符を打ち、世界でも例を見ない250年間にも及ぶ平和な時代「パックス・トクガワナ」を築いた、世界史上の偉人でもある。

そこで、SDGs目標16「平和と公正をすべての人に」を意識して本構想を見つめなおすと、家康公が希求した「平和」を歴史文化施設で取り上げていくことが必要となってくる。

このため、歴史文化施設から家康公の偉業とともに「平和」が世界に向けて強く発信され、SDGs目標16の達成に大きく貢献している姿を、2030年における本市の姿として描く。

(2) 方針

① 歴史文化の伝承と新たな魅力の創出による風格ある街並みの形成

駿府城公園や浅間神社などの美しい景観を有する歴史的資源を磨き上げ、歴史を感じる空間を創ることにより、駿府城公園周辺エリアのブランド力を高め、静岡都心への集客力を高める。

② 駿府城公園周辺における賑わいと潤いのある新たな公共空間の創造

駿府城公園などの歴史的施設で、公共空間を活用した、地域資産の魅力を向上させる取組を行うことにより、全ての市民の静岡都心への誇りと愛着を高め、「まちなかライフ」の楽しさを演出する。

5 海洋文化の拠点づくり【清水都心】

(1) SDGsを踏まえての 2030 年の姿

清水港周辺に集積する海洋関連産業や教育機関を活かし、世界の玄関口となる「国際海洋文化都市」に変身を遂げるとともに、災害に強い清水都心を形成し、ウォーターフロント地区の新たな賑わい、交流、経済の活性化を実現する。

本構想は、SDGs目標4「質の高い教育をみんなに」、目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」にも好影響を及ぼしつつ、目標14「海の豊かさを守ろう」の達成を目指すものである。

経済のグローバル化が進展し、物流を取り巻く環境が大きく変化する中において、港まち清水をさらに発展させるためには、清水港の優位性を活かして物流機能を強化し、ロジスティクス産業の振興を進めることが必要である。

また、海洋文化施設は、日本一の深さを誇る駿河湾の目の前という絶好のロケーションのもと、海洋研究の成果を発信し、人々でにぎわう新たなシンボルとして、港まち清水の再生、さらには静岡市発展の切り札ともなり得るものである。

しかしながら、SDGsというフィルターを通して海洋文化施設を見つめなおすと、静岡市や駿河湾のような地球規模で見れば小さなエリアではなく、その先に広がる太平洋までをフィールドとした地球全体の海を取り巻く環境の保全や、世界の人々が海の資源に感謝し、海の豊かさを守ろうとする心を育てていく役割まで見据えるべきである。

このため、海洋文化施設に、世界中から第一線で活躍する研究者が集まり、最先端の海洋研究が行われ世界に向け発信することによりSDGs目標 14 の達成に大きく貢献している姿を、2030 年における本市の姿として描く。

(2)方 針

① 「働くみなと」に「楽しむみなと」を加えた求心力の強い港町の創生

清水都心ウォーターフロント地区において、観光の基盤整備や、わくわくドキドキを肌で感じるような多彩な賑わいづくりの施設を通して、民間投資を喚起していく。

② 産学官民連携による「海洋文化拠点」の形成

大学等の研究機関や周辺企業との連携を深め、新たな海洋産業や海洋人材の育成と、海洋・地球に関する総合的な展示施設である「海洋文化施設」を整備し、この施設が国際海洋文化都市のシンボル施設となることを目指していく。

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール

(経済)

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8.6	指標: 静岡シチズンカレッジ「こ・こ・に」を受講した人にうちシチズンシップが身についた人の割合	
	現在(2017年3月): 98.9%	2030年: 100%
 8.9	指標: 演劇・ダンスを中心とした文化芸術イベント「ストレンジシード」来場者数	
	現在(2017年3月): 7,190人	2030年: 43,720人
	指標: 関連施設・イベント入込客数(駿府城公園・静岡まつり等)	
	現在(2014年3月): 2,116千人	2030年: 2,960千人
 8.9  11.7	指標: 歩行者通行量	
	現在(2015年3月): 6,445人	2030年: 8,253人
 9.2	指標: ロジスティクス関連企業立地件数	
	現在(2014年3月): 3件	2030年: 5件
 12.3	指標: 一人一日当たりのごみ総排出量	
	現在(2014年3月): 1,008g/人日	2030年: 810g/人日
 16.7	指標: 主要な通りの店舗・事業所数	
	現在(2015年3月): 540件	2030年: 580件
	指標: 歴史や文化を身近に感じることができる街だと思ふ市民の割合	
	現在(2015年3月): 63.8%	2030年: 100%

※数値は、現状から試算して算出。

「まちづくりは人づくり」の意識のもと、「構想力」「行動力」「人間力」を兼ね備えた市民と行政との協働によるまちづくりを担うシチズンシップに富んだ人材を養成する「静岡シチズンカレッジこ・こ・に」事業を推進するとともに、困難を抱える子ども・若者とその家庭への支援にも取り組み、誰一人取り残されない人づくりを推進していく。

「高等教育のあり方検討」の中で、第4次産業革命の進展を踏まえたうえでのリカレント教育の充実策等を検討し、具体的な取組を進めていく。

「まち劇場」プロジェクトのイベント情報を発信し、同プロジェクトの認知度向上とイベントへの関心を高め、賑わいの創出と交流人口の増加を図る。

ユニークベニューの視点を加味した駿府城公園のあり方と活用の検討を様々なステークホルダーと行い、「歴史文化のまち」の拠点として、誰もが行きたくなる静岡都市の賑わいづくりにつなげていく。

歴史文化の核となる駿府城公園と商業地区との間の追手町音羽町線等を平和の礎を築いた徳川家康公の功績「パックス・トクガワーナ」を共有しながら官民連携で賑わいのある空間にしていく。

海洋文化の拠点づくりの一環として行う海洋産業クラスター創造事業において、駿河湾という「海洋資源」、大学等研究機関の「知見」、清水港とともに発展してきた造船業をはじめとする機械金属製造業や水産加工業等の関連産業の「技術」を組み合わせることにより、海洋関連産業における新事業創出・事業高度化を推進するとともに、研究機能の強化・集積を図る。

この取組により水産物を高機能性食品に加工する技術開発にも取り組み、食料の廃棄量削減を推進していく。

(社会)

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 1.2  4.1  17.17	指標: 静岡シチズンカレッジ「こ・こ・に」を受講した人にうちシチズンシップが身についた人の割合	
	現在(2017年3月): 98.9%	2030年: 100%
 3.4	指標: セーフティーネットが整備されているまちと思う市民の割合	
	現在(2014年3月): 32%	2030年: 48%
 8.5	指標: 65歳以上高齢者の地域貢献活動に対する満足度	
	現在(2017年3月): 85%	2030年: 97%
 9.1	指標: JR草薙駅周辺整備事業の進捗率	
	現在(2017年3月): 75.4%	2030年: 100%

	9.5	指標：清水港の航路数	
		現在(2013年3月): 23 航路	2030年: 27 航路
		指標：コンテナ取扱量	
		現在(2013年3月): 498,726TEU	2030年: 676,400TEU
	17.17	指標：メール配信された高齢者と家族への支援の実施	
		現在(2017年3月): 100%	2030年: 100%
		指標：学校訪問コンサート実施校数	
		現在(2017年3月): 14校	2030年: 14校

※数値は、現状から試算して算出。

「まちづくりは人づくり」の意識のもと、「構想力」「行動力」「人間力」を兼ね備えた市民と行政との協働によるまちづくりを担うシチズンシップに富んだ人材を養成する「静岡シチズンカレッジこ・こ・に」事業を推進するとともに、困難を抱える子ども・若者とその家庭への支援にも取り組み、誰一人取り残されない人づくりを推進していく。

「高等教育のあり方検討」の中で、第4次産業革命の進展を踏まえたうえでのリカレント教育の充実策等を検討し、具体的な取組を進めていく。

県内有数の規模と賑わいの中心である葵区呉服町地区と、近隣に大学等の教育機関や福祉施設、商業施設が集積する駿河区役所周辺地区の2地区において、若者が地域と交流しながら生涯活躍のまちづくりに参画する機会を充実し、予防や治療に対する関心を高めていく。

65歳以上高齢者の地域貢献活動をポイント化し、一定のポイントで地場産品と交換することで、地産産品の振興につなげ、市内産業の担い手確保を図る。

JR草薙駅橋上駅舎北及び南北自由通路や南北駅前広場、アクセス道路等の整備でバリアフリー化や交通結節機能の強化を進め、近隣の大学を核に南北地区が一体となり、外出したくなる新たな賑わいの拠点を創出する。

清水港の優位性を活かして物流機能を強化し、ロジスティクス産業の振興を進めていくとともに、海洋文化拠点施設において、世界最先端の海洋研究を進めるために研究者を集め、次世代の研究を担う人材を育成する。

地域での認知症高齢者についての理解を深めるとともに、見守りや連携体制を構築し、認知症による行方不明者をできるだけ早く安全に保護できる体制を構築する。

市内で活動しているオーケストラと連携し、学校訪問コンサートやオープンスペースでのコンサートを行い、音楽文化を通じてまちを活性化させる。

また、障がい者出演舞台公演の誘致など、あらゆる人々が文化芸術活動に参加できる環境

整備を進める。

(環境)

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 12.3	指標：一人一日当たりのごみ総排出量	
	現在(2014年3月)： 1,008g/人日	2030年： 810g/人日
 14.1	指標：排水基準遵守率	
	現在(2017年3月)： 93%	2030年： 100%
 14.b	指標：ロジスティクス関連企業立地件数	
	現在(2014年3月)： 3件	2030年： 5件

※数値は、現在から試算して算出。

海洋文化の拠点づくりの一環として行う海洋産業クラスター創造事業において、駿河湾という「海洋資源」、大学等研究機関の「知見」、清水港とともに発展してきた造船業をはじめとする機械金属製造業や水産加工業等の関連産業の「技術」を組み合わせることにより、海洋関連産業における新事業創出・事業高度化を推進するとともに、研究機能の強化・集積を図る。

この取組により水産物を高機能性食品に加工する技術開発にも取り組み、食料の廃棄量削減を推進していく。

また、駿河湾から太平洋を視野に入れた保全、事業展開を推進することで、環境、経済、社会の好循環を生み出していく。

1.2 自治体SDGsの推進に資する取組

(1)自治体SDGsの推進に資する取組の概要(2018～2020年度の取組)

1.「健康長寿のまち」の推進

この構想では、直結するSDGs目標3「すべての人に健康と福祉を」を通じて、以下のゴールとターゲットに波及効果を加える事業をSDGs未来都市選定後の3年間に実施する。

① 健康寿命 75 歳への延伸

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 3.4	指標：セーフティーネットが整備されているまちと思う市民の割合	
	現在(2014年3月): 32%	2020年: 38%
 8.5	指標：65歳以上高齢者の地域貢献活動に対する満足度	
	現在(2017年3月): 85%	2020年: 87%

※KPIは、既存の項目から暫定的に設定。

県内有数の規模と賑わいの中心である葵区呉服町地区と、近隣に大学等の教育機関や福祉施設、商業施設が集積する駿河区役所周辺地区の2地区において、若者が地域と交流しながら生涯活躍のまちづくりに参画する機会を充実し、予防や治療に対する関心を高めていく。

65歳以上高齢者の地域貢献活動をポイント化し、一定のポイントで地場産品と交換することで、地盤産品の振興につなげ、市内産業の担い手確保を図る。

②自宅ですっと暮らせるまちづくり

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 17.17	指標：メール配信された高齢者と家族への支援の実施	
	現在(2017年3月): 100%	2020年: 100%

※KPIは、既存の項目から暫定的に設定。

地域での認知症高齢者についての理解を深めるとともに、見守りや連携体制を構築し、認知症による行方不明者をできるだけ早く安全に保護できる体制を構築する。

2.「まちは劇場」の推進

この構想では、直結するSDGs目標8「働きがいも経済成長も」を通じて、以下のゴールとターゲットに波及効果を加える事業をSDGs未来都市選定後の3年間に実施する。

①わくわくドキドキの仕掛けづくりと人材育成

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8.9	指標: 演劇・ダンスを中心とした文化芸術イベント「ストレンジシード」 来場者数	
	現在(2017年3月): 7,190人	2020年: 15,620人
 17.17	指標: 学校訪問コンサート実施校数	
	現在(2017年3月): 14校	2020年: 14校

※KPIは、既存の項目から暫定的に設定。

「まちは劇場」プロジェクトのイベント情報を発信し、同プロジェクトの認知度向上とイベントへの関心を高め、賑わいの創出と交流人口の増加を図る。

市内で活動しているオーケストラと連携し、学校訪問コンサートやオープンスペースでのコンサートを行い、音楽文化を通じてまちを活性化させる。

また、障がい者出演舞台公演の誘致など、あらゆる人々が文化芸術活動に参加できる環境整備を進める。

②公共空間の積極的な活用による文化・クリエイティブ活動の「舞台」の創出

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8.9	指標: 関連施設・イベント入込客数(駿府城公園・静岡まつり等)	
	現在(2014年3月): 2,116千人	2020年: 2,435千人
 11.7	指標: 歩行者通行量	
	現在(2015年3月): 6,445人	2020年: 7,123人

※KPIは、既存の項目から暫定的に設定。

ユニークベニューの視点を加味した駿府城公園のあり方と活用の検討を様々なステークホルダーとを行い、「歴史文化のまち」の拠点として、誰もが行きたくなる静岡都市の賑わいづくりにつなげていく。

「まちは劇場」プロジェクトのイベント情報を発信し、同プロジェクトの認知度向上とイベントへの関心を高め、賑わいの創出と交流人口の増加を図る。

3. 教育文化の拠点づくり

この構想では、直結するSDGs目標4「質の高い教育をみんなに」を通じて、以下のゴールとターゲットに波及効果を加える事業をSDGs未来都市選定後の3年間に実施する。

①教育文化の香りが漂う都市空間の創造

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 9.1	指標：JR草薙駅周辺整備事業の進捗率	
	現在(2017年3月): 75.4%	2020年: 100%

※KPIは、既存の項目から暫定的に設定。

JR草薙駅橋上駅舎北及び南北自由通路や南北駅前広場、アクセス道路等の整備でバリアフリー化や交通結節機能の強化を進め、近隣の大学を核に南北地区が一体となり、外出したくなる新たな賑わいの拠点を創出する。

②高等教育をはじめとした学習機会の提供とシチズンシップに富んだ人材の養成

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 1.2  4.1 8.6 17.17	指標：静岡シチズンカレッジ「こ・こ・に」を受講した人にうちシチズンシップが身についた人の割合	
	現在(2017年3月): 98.9%	2020年: 100%

※KPIは、既存の項目から暫定的に設定。

「まちづくりは人づくり」の意識のもと、「構想力」「行動力」「人間力」を兼ね備えた市民と行政との協働によるまちづくりを担うシチズンシップに富んだ人材を養成する「静岡シチズンカレッジこ・こ・に」事業を推進するとともに、困難を抱える子ども・若者とその家庭への支援にも取り組み、誰一人取り残されない人づくりを推進していく。

「高等教育のあり方検討」の中で、第4次産業革命の進展を踏まえたうえでのリカレント教育の充実策等を検討し、具体的な取組を進めていく。

4. 歴史文化の拠点づくり

この構想では、直結するSDGs目標 16「平和と公正をすべての人に」を通じて、以下のゴールとターゲットに波及効果を加える事業をSDGs未来都市選定後の3年間に実施する。

①歴史文化の伝承と新たな魅力の創出による風格ある街並みの形成

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8.9	指標: 歩行者通行量	
	現在(2015年3月): 6,445人	2020年: 7,123人
 16.7	指標: 主要な通りの店舗・事業所数	
	現在(2015年3月): 540件	2020年: 555件

※KPIは、既存の項目から暫定的に設定。

歴史文化の核となる駿府城公園と商業地区との間の追手町音羽町線等を平和の礎を築いた徳川家康公の功績「パックス・トクガワーナ」を共有しながら官民連携で賑わいのある空間にしていく。

②駿府城公園周辺における賑わいと潤いのある新たな公共空間の創造

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8.9	指標: 関連施設・イベント入込客数(駿府城公園・静岡まつり等)	
	現在(2014年3月): 2,116千人	2020年: 2,435千人
 16.7	指標: 歴史や文化を身近に感じることができる街だと思える市民の割合	
	現在(2015年3月): 63.8%	2020年: 73.8%

※KPIは、既存の項目から暫定的に設定。

ユニークベニューの視点を加味した駿府城公園のあり方と活用の検討を行い、家康公が希求した「平和」を発信しながら「歴史文化のまち」の拠点として静岡都市の賑わいづくりにつなげていく。

5. 海洋文化の拠点づくり

この構想では、直結するSDGs目標 14「海の豊かさを守ろう」を通じて、以下のゴールとターゲットに波及効果を加える事業をSDGs未来都市選定後の3年間に実施する。

①「働くみなと」に「楽しむみなと」を加えた求心力の強い港町の創生

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 9.5	指標: 清水港の航路数	
	現在(2013年3月): 23 航路	2020年: 27 航路
	指標: コンテナ取扱量	
	現在(2013年3月): 498,726TEU	2020年: 646,600TEU

※KPIは、既存の項目から暫定的に設定。

清水港の優位性を活かして物流機能を強化し、ロジスティクス産業の振興を進めていくとともに、海洋文化拠点施設において、世界最先端の海洋研究を進めるために研究者を集め、次世代の研究を担う人材を育成する。

②産学官民連携による「海洋文化拠点」の形成

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 9.2  14.b	指標: ロジスティクス関連企業立地件数	
	現在(2014年3月): 3件	2020年: 4件
 12.3	指標: 一人一日当たりのごみ総排出量	
	現在(2014年3月): 1,008g/人日	2020年: 975g/人日
 14.1	指標: 排水基準遵守率	
	現在(2017年3月): 93%	2020年: 100%

※KPIは、既存の項目から暫定的に設定。

海洋文化の拠点づくりの一環として行う海洋産業クラスター創造事業において、駿河湾という「海洋資源」、大学等研究機関の「知見」、清水港とともに発展してきた造船業をはじめとする機械金属製造業や水産加工業等の関連産業の「技術」を組み合わせることにより、海洋関連産業における新事業創出・事業高度化を推進するとともに、研究機能の強化・集積を図る。

この取組により水産物を高機能性食品に加工する技術開発にも取り組み、食料の廃棄量削減を推進していく。

また、駿河湾から太平洋を視野に入れた保全、事業展開を推進することで、環境、経済、社会の好循環を生み出していく。

(2) 自治体 SDGsの情報発信・普及啓発策

SDGsに対する市民認知度の低いこと(平成 29 年 10 月、市民 92 人を対象にSDGsの認知度を調査したところ、SDGsを知っている市民は2%しかいない)が、「全ての主体を集結し」「誰一人取り残すことなく」「全ての人々の人権を実現」しようとするSDGs推進の大きな障壁となることが危惧されるため、SDGsの強力な普及展開を図る。

(域内向け)

1. TGC SHIZUOKA 2019 for SDGs(仮称)の開催

SDGsの普及啓発に取り組む国連と、SDGsの担い手となる若者へ強力な発信力を持つ東京ガールズコレクション(TGC)が本格的に連携し、開催する「TGC SHIZUOKA 2019 for SDGs(仮称)」を通じて、本市のSDGs推進の取組を発信する。

また、SDGs推進の意義、市内の様々なステークホルダーによるSDGs推進の取組をTGCの出演モデル(モデル一人につき、フォロワーが10万以上有)を通じて発信することで、多くの若者への普及啓発を図る。

特に、1月3日に市成人式実行委員会(成人式を迎える若者から構成)が開催する成人式から「TGC SHIZUOKA 2019 for SDGs(仮称)」開催までの期間をSDGs推進ウィークとして、大学や企業、静岡青年会議所など様々なステークホルダーが主体となってSDGs推進の普及啓発イベント等を行い、その集大成として「TGC SHIZUOKA 2019 for SDGs(仮称)」を位置付ける。

様々なステークホルダーを巻き込みながら、SDGs推進の取組の発信と普及啓発に相乗効果が期待できる。

2. 教育分野との連携

中学校の公民の授業単元をSDGsで分類整理し、SDGsに位置付けながら学習を進める授業カリキュラムを策定し、平成 30 年度から市内中学校でモデル実施する。

授業には、国連のNGO(国連の友AP)職員等を招聘し、中学生に期待するアクションの講演を行いながら、他の中学校への水平展開を図る。

3. 大学との連携

市内大学及び静岡青年会議所と連携し、企業へSDGs推進の取組を広げるための課題と対策を調査研究し、業種別にモデル企業を設定し、SDGs推進の取組を実施しながら、市内企業への水平展開を図る。

4. 静岡青年会議所との連携

座学でSDGsを理解した構成員が講師として市内小学校を訪問し、SDGsカードを活用してゲーム感覚でSDGsの普及啓発を図る。

5. 株式会社 WTOKYO との連携

関係を持つモデルやアーティストの派遣などSDGsを推進する東京ガールズコレクション開催に向けた必要な支援を行い、若者を中心としたSDGsの普及啓発を図る。

6. 地方創生カレッジ

内閣府による地方創生カレッジ事業を活用し、SDGsに関するセミナーを開催したうえで、大学生及び社会人によるワークショップを平成 30 年3月 13 日に行った。

7. マスメディアを活用した市内企業向け情報発信

市内企業及び市民に対し、SDGsを的確に情報発信するため、「SDGs×静岡市」プロジェクトを実施する。まずは、マスメディア自身のSDGsへの理解を深めるためのミーティングを複数回開催し、市内民放4局が連携したイベントの開催も視野に入れていく。なお、本事業は、株式会社N TTデータ経営研究所からの提案により、同社のモデル事業として実施するものである。

(域外向け (国内))

1. TGC SHIZUOKA 2019 for SDGs(仮称)の開催【再掲】

SDGsの普及啓発に取り組む国連と、SDGsの担い手となる若者へ強力な発信力を持つ東京ガールズコレクション(TGC)が本格的に連携し、開催する「TGC SHIZUOKA 2019 for SDGs(仮称)」を通じて、本市のSDGs推進の取組を発信する。

また、SDGs推進の意義、市内の様々なステークホルダーによるSDGs推進の取組をTGCの出演モデル(モデル一人につき、フォロワーが10万以上有)を通じて発信することで、多くの若者への普及啓発を図る。

特に、1月3日に市成人式実行委員会(成人式を迎える若者から構成)が開催する成人式から「TGC SHIZUOKA 2019 for SDGs(仮称)」開催までの期間をSDGs推進ウィークとして、大学や企業、静岡青年会議所など様々なステークホルダーが主体となってSDGs推進の普及啓発イベント等を行い、その集大成として「TGC SHIZUOKA 2019 for SDGs(仮称)」を位置付ける。

様々なステークホルダーを巻き込みながら、SDGs推進の取組の発信と普及啓発に相乗効果が期待できる。

(海外向け)

1. TGC SHIZUOKA 2019 for SDGs(仮称)の開催【再掲】

SDGsの普及啓発に取り組む国連と、SDGsの担い手となる若者へ強力な発信力を持つ東京ガールズコレクション(TGC)が本格的に連携し、開催する「TGC SHIZUOKA 2019 for SDGs(仮称)」を通じて、本市のSDGs推進の取組を発信する。

また、SDGs推進の意義、市内の様々なステークホルダーによるSDGs推進の取組をTGCの出演モデル(モデル一人につき、フォロワーが10万以上有)を通じて発信することで、多くの若者への普及啓発を図る。

特に、1月3日に市成人式実行委員会(成人式を迎える若者から構成)が開催する成人式から「TGC SHIZUOKA 2019 for SDGs(仮称)」開催までの期間をSDGs推進ウィークとして、大学や企業、静岡青年会議所など様々なステークホルダーが主体となってSDGs推進の普及啓発イベント等を行い、その集大成として「TGC SHIZUOKA 2019 for SDGs(仮称)」を位置付ける。

様々なステークホルダーを巻き込みながら、SDGs推進の取組の発信と普及啓発に相乗効果が期待できる。

2. 国連の友との連携

SDGsの推進を図るため、市民及び市内企業等へのSDGsの普及促進、教育及び学習機会の提供、世界に向けての情報発信に相互に連携して取り組む。なお、国連の友APとの連携にあたっては、平成30年5月16日に「SDGsの推進に向けた連携に関する協定書」を締結している。

3. 国際連合との連携

国連NY本部SDGs推進会議で求められた本市のSDGs推進を通じた市内のSDGsの認知度調査結果やハイレベルポリティカルフォーラムで認められた「ハブ都市」としての活動内容について、国連に自発的な報告をしていく。

1.3 推進体制

(1) 各種計画への反映状況

国の実施指針を参考に「(仮称)静岡市持続可能な開発目標(SDGs)実施指針」を作成する。

これは、市の施策をSDGsの各目標に関連づけるとともに、2030アジェンダをシステムとして活用した新規事業の立案や行政評価等を行うことにより、市政全般にSDGsを組み込もうとするものである。

本指針を踏まえ、各種計画へSDGs推進の意義、考え方、目標、ターゲットなどを反映していく。

特に、政策の推進及び都市経営に関する市長の意思決定を要する重要なものについては、SDGsとの関連づけを市長が確認し、2030年に「世界に輝く静岡」の実現に向けSDGsの活用方を明確にすることにより、政策の一貫性を強化していく。

(仮称)静岡市持続可能な開発目標(SDGs)実施指針(案)

1. SDGs推進の理由・背景

2. SDGs推進の目的

(1)まちづくりの目標「世界に輝く静岡」の実現を加速

(2)政策立案時の着眼点の多様化・グローバル化

3. SDGsの理念等と推進するメリット

(1)理念等

普遍性、包摂性、参画性、統合性、透明性と説明責任、バックキャスティング

(2)SDGsを推進するメリット

市政、市民、(中小)企業

4. 静岡モデルのSDGsの推進

(1)市政への組み込み

SDGsを五大構想に組み込むこと、五大構想以外への組み込みの考え方

(2)普及啓発の方策

市民、若者、企業

5. 推進体制

(1)庁内の体制

(2)ステークホルダーとの連携

6. フォローアップ・レビュー

【総合計画】

総合計画の実施計画に「(仮称)静岡市持続可能な開発目標(SDGs)実施指針」で示されたSDGs推進の考え方を掲載していく。

【総合戦略】

本市の総合戦略に掲げている6つの戦略のひとつ「時代に合った『まち』をつくり、圏域の連携を深める」にSDGs推進を明示し、具体的な実施事業として、SDGs推進の評価検証システムの構築や若者への普及啓発などの取組を静岡市SDGs推進事業として掲載している。

【環境基本計画】

IoTを活用したエネルギーマネジメント技術の確立、水素エネルギーの利活用、溶融スラグの有効活用などのグリーンイノベーションの推進を図るための施策を中心に、「経済」と「社会」に好循環を生み出すリーディングプロジェクトを新たに設定するとともに、国の第5次環境基本計画で掲げる「地域循環共生圏形成」及びSDGs推進の理念を踏まえ、平成27年3月に策定した「第2次静岡市環境基本計画」の中から、地域から発信していく環境政策の体系を整理していく。

【静岡市障がい者共生のまちづくり計画】

SDGsのターゲット「すべての人々に対して、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジを達成すること」「障がいのある子ども等の弱い立場にある人が、あらゆるレベルの教育や職業訓練の機会に平等にアクセスできるようにすること」「障がいのある人を含むすべての人について、完全かつ生産的な雇用、働きがいのある人間らしい仕事、同一労働同一賃金を達成すること」「障がいのある人を含むすべての人が、公共交通機関や公共スペースを安全かつ容易に利用できるようにすること」を本市の施策と関連付けて取り入れることで、目標を達成するための推進力として活用している。

【健康長寿のまちづくり計画】

市民一人ひとりが自らの健康を意識し、自然に健康長寿を実現できるまち、地域に根差した「静岡型地域包括ケアシステム」の構築を目指し、家康公の健康長寿の秘訣と言われる“知”[社会参加]、“食”[食事]、“体”[運動]を軸とした取組や、医療・介護の専門職や地域の市民の連携により、切れ目のない医療・介護や介護予防、生活支援といった支援の体制を身近な学区、地区単位(市内78地区)で構築していく。

【施政方針(抜粋)】

「地球儀を俯瞰する」安倍晋三首相は、本年の施政方針演説においてこのように述べ、我が国が世界の平和と繁栄に貢献する決意を示し、自治体に対して、国際連合が掲げるSDGs実現への協力を要請されました。

SDGsとは、2015年9月に国連サミットにおいて全会一致で採択された、持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)の略称です。この目標達成に向けて、国連加盟国は2030年までに「地球上の誰一人として取り残さない」との合言葉の下、この地球から貧困や飢餓、環境汚染や気候変動、テロや戦争などがもたらす“人類の不安や不幸”を除去する努力を求められることとなりました。SDGsとは先進国も途上国も共に、いわば「この世界を♪ずっとみんなで」良くしようという17の目標と169のターゲットから構成された、15年間に渡る“国連版の総合計画”なのです。

これに呼応して、国は先頃「地方創生に向けた自治体SDGs推進事業について」との指針を公表し、自治体のSDGsの取組を後押しし始めました。もとよりSDGsが目指す国際社会の姿は、静岡“市民の安心や幸せ”を実現しようとする、本市が目指す都市の姿と重なります。

そこで本市では全国に先駆けて来年度から、3次総の中にSDGsを組み込む作業に着手することになりました。具体的には、SDGsが掲げる17の目標の幾つかを、3次総のとおりわけ<5大構想>実現に向けた工程表の中に盛り込み指標化する取組を始めます。3次総に、より高いストレッチ目標を掲げることにより、その実現への加速力としていこうという試みです。

幸いこれまでの取組を通して、<5大構想>のうち静岡都心、清水都心そして草薙・東静岡副都心の「世界に存在感を示す3つの都心づくり」に蒔かれた種が、少しずつ芽生えてきていると手応えを感じています。

静岡都心の《歴史文化の拠点づくり》では、駿府城天守台の発掘調査の過程で、江戸城をも凌ぐ日本一のスケールの天守台が姿を現していますし、歴史文化施設の建設に向けては、世界に名だたる建築家の手によって設計が進んでいます。清水都心の《海洋文化の拠点づくり》では、清水港の国際クルーズ拠点形成港湾の指定を受け、客船の寄港が飛躍的に増加する中、海洋文化施設の整備に向けた基本計画の策定が始まり、新清水庁舎にあつては基本構想案が固まり、目下パブリックコメントが実施されています。そして草薙・東静岡副都心の《教育文化の拠点づくり》では、草薙地区に今春、常葉大学新キャンパスが開学する一方、東静岡地区には、「アート&スポーツ/ヒロバ」の一角に、ローラースポーツパークが暫定整備され、市内外から多くの若者を呼び込んでいます。

以上の考え方とこれまでの成果の下、来年度はこれらの芽をさらに育てていくべく、SDGsの指標化という新たな養分を与え、〈5大構想〉をリーディングプロジェクトとした3次総を引き続き強力で推進していきます。

このほか、「(仮称)静岡市持続可能な開発目標(SDGs)実施指針」に基づき、静岡市女性活躍推進計画、静岡市多文化共生推進計画、静岡市大谷・小鹿まちづくりランドデザインなど100の計画、ビジョン、指針等にSDGsの目標やターゲットなどの位置づけを検討し、施策を展開していく。

(2) 行政体内部の執行体制

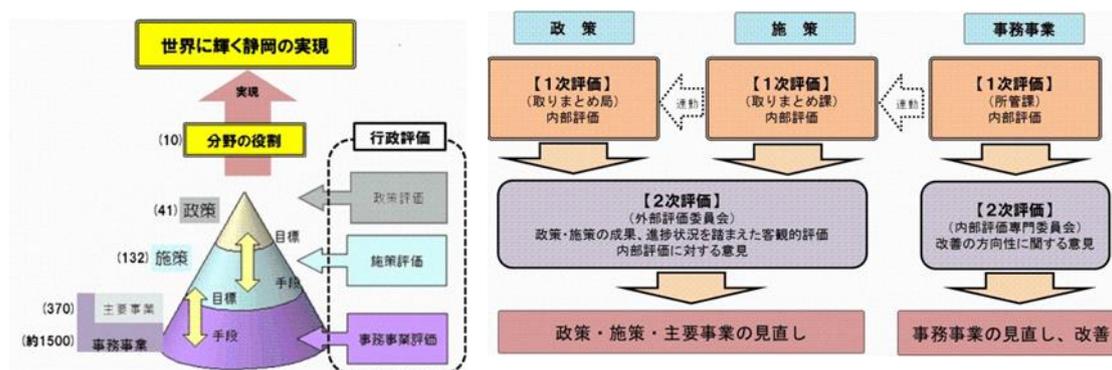
政策の推進及び都市経営に関する市長の意思決定を要する重要なものについては、SDGsとの関連づけを市長が確認し、2030年に「世界に輝く静岡」の実現に向けSDGsの活用方策を明確にすることにより、政策の一貫性を強化していく。

1. 静岡市創生・SDGs推進本部の設置

人口減少対策に取り組むために平成27年4月に設置した静岡市人口減少対策推進本部(本部長:市長、副本部長:副市長、本部員:公営企業管理者、政策官及び各局長等)の名称を平成30年度から「(仮称)静岡市創生・SDGs推進本部会議」に改め、SDGs推進を所掌事務に加え、全庁的にSDGsを推進する。

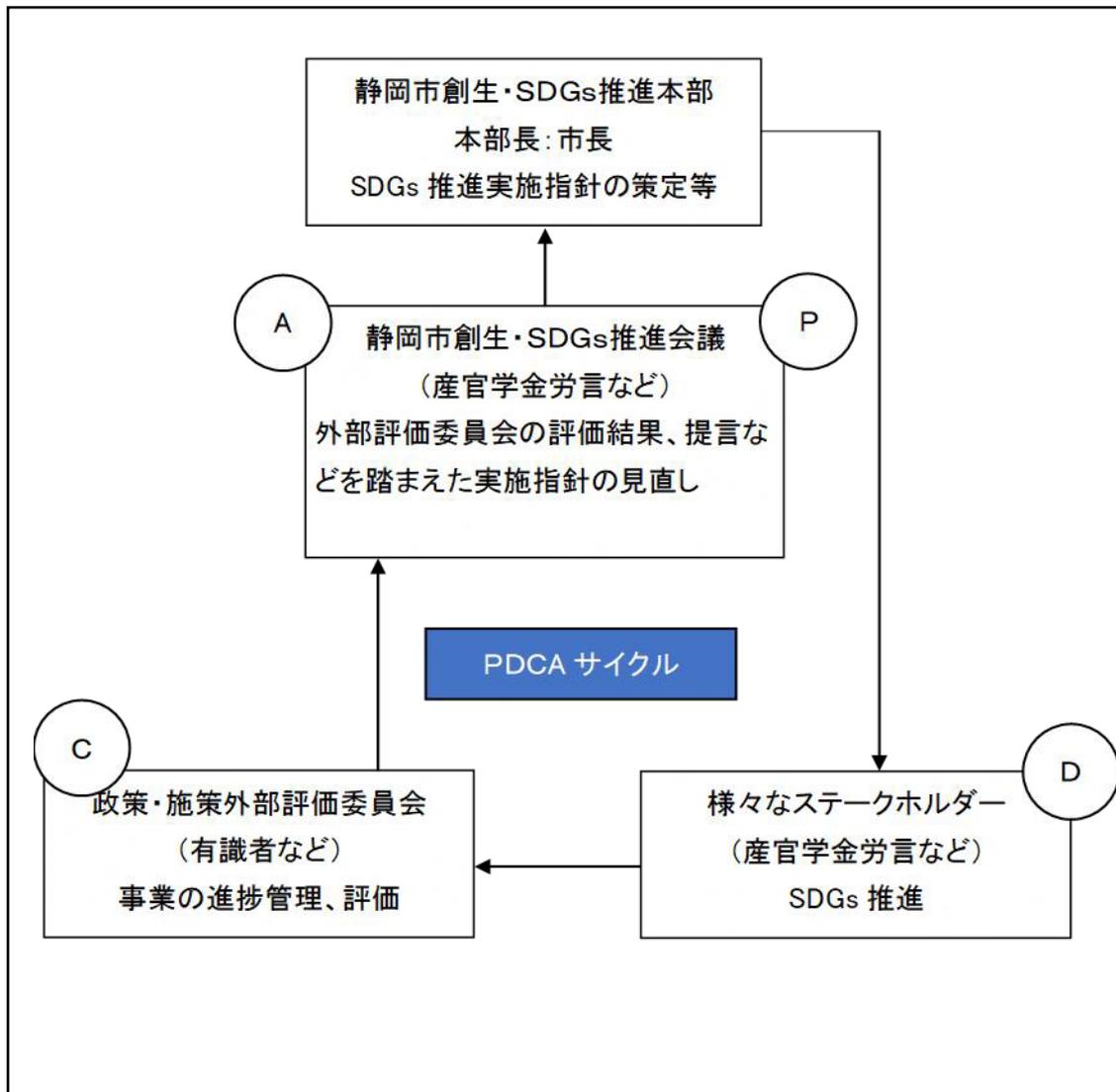
(仮称)静岡市創生・SDGs推進本部がSDGs推進のコントロールタワーとなって、様々なステークホルダーと連携しながら事業を実施する。また、「(仮称)静岡市持続可能な開発目標(SDGs)実施指針」に基づき、新規に取り組むSDGs事業であっても、総合計画に位置付けることにより、事業の評価は、既に行っている総合計画の評価の中で行っていく。

なお、実務面は、市の総合計画推進を担当する各局企画主任者及び各課企画主任者が担うこととする。



2. 静岡市創生・SDGs推進会議の設置

静岡市総合戦略を推進するため、2016年4月に設置した産・官・学・金・労・言から構成される静岡市創生推進会議の所掌事項にSDGs推進に関することを加え、2018年3月に静岡市創生・SDGs推進会議と改称した。



(3) ステークホルダーとの連携

(域内の連携)

1. TGC SHIZUOKA 2019 forSDGs地域協議会

SDGsを推進するTGC開催に向け、SDGsの普及啓発や静岡市・静岡県の魅力の発信などに取り組み、交流人口の拡大と地域活性化を図るために平成30年10月に設置予定。

主な構成員は、静岡商工会議所、静岡青年会議所、静岡県繊維協会、静岡特産工業協会、静岡県観光協会、静岡市観光大使、静岡県。

地元関係者等が連携し、静岡らしいTGCの開催に向けた取組を進めていく。

2. SDGs推進ウィークプロジェクト(仮称)

SDGs推進ウィークの実施にあたり、SDGs普及に向けた情報等を効果的に発信するために、実施事業ごとにプロジェクトチームを平成30年に設置予定である。

主な構成員は、事業ごとに異なるが、現時点では、静岡青年会議所、民間企業等であり、TGC本体事業への提案に加え、自主事業の企画運営等を行う。メリットは、様々なステークホルダーを巻き込むことで、まち全体がSDGs一色となり、SDGs推進の核となる人材(団体)が育成されていく。

3. 中部地区(静岡市、島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町、川根本町)広域連携による観光まちづくりプロジェクト

DMOの推進を目的に平成29年10月に設置した。

主な構成員は、中部地区内の首長、旅行会社、金融機関、鉄道事業者であり、大規模な市場調査に基づいたプログラム開発や個別資源開発など、デスティネーションブランド戦略に取り組むことで、地域経済の活性化に対する認識を共有し、一体的に事業を展開していく。

4. 静岡市海洋産業クラスター協議会

5大構想の一つである「海洋文化の拠点づくり」を推進するため、平成28年5月に設置した。

主な構成員は、国立研究開発法人海洋研究開発機構及び水産研究・教育機構、東海大学、静岡大学、静岡県立大学、静岡商工会議所、国土交通省清水港湾事務所、静岡県であり、「研究開発推進」「新事業創出」「人材育成」「企業集積、研究集積、人材集積」による持続的イノベーションサイクルの構築に取り組むことで、駿河湾をフィールドに海洋の調査研究・開発を加速していく。

5. 生涯活躍のまち静岡推進協議会

葵区呉服町地区及び駿河区役所周辺地区におけるCCRCを推進するため、平成29年6月に設置した。

主な構成員は、有料老人ホーム運営事業者、再開発まちづくり会社、静岡市社会福祉協議会、市内大学、地元自治会・商店街であり、幅広いソフトサービスの提供経験を持つ民間事業者のノウハウと、地域に密着した活動をすでに実施している社会福祉法人・大学等の強みを活かした事業を展開していく。

6. 静岡市PF官民推進協議会

プレミアムフライデーをきっかけとした働き方改革を推進するため、平成 29 年2月に設置した。
主な構成員は、静岡商工会議所、I Love しずおか協議会(企業主体でまちに賑わいを創出するための様々な企画・運営を行う協議会)、清水駅前中心市街地情報交換会、公益財団法人静岡市まちづくり公社、静岡市商店会連盟、静岡市清水商店街連盟、静岡地域労働者福祉協議会、公益財団法人静岡市勤労者福祉サービスセンターであり、送り出し側である企業、受入側である個店・施設と連携した事業を展開していく。

7. 三保松原保全センター(仮称)

富士山世界文化遺産の構成資産として登録された三保松原の保全と利活用を両立する「三保モデル」を構築するため平成 30 年 12 月に設置予定である。

主な構成員は、静岡商工会議所、静岡観光コンベンション協会、三保松原保全活用団体、東海大学、静岡大学、静岡県立大学、常葉大学、静岡農業高等学校、学識者、住民代表であり、CSR 活動を行う企業に対する効果的で達成感のある活動プログラムの提供や、地元の旅館業・観光業と連携した三保松原保全ツアーなどを展開していく。

8. しずおか産学就職連絡会

若者の市内企業への就労を促進するため、平成 29 年6月に設置した。

主な構成員は、静岡商工会議所、市内大学であり、若者向けの講習会、セミナーや企業求人・採用支援が行われた企業と若者とのマッチングする機会を充実することを通じて、企業の人材確保、生産性の向上等を図っていく。

9. 青年会議所

座学でSDGsを理解した構成員が講師として市内中学校を訪問し、SDGsカードやすごろくを活用してゲーム感覚でSDGsの普及啓発を図る。

10. 株式会社NTTデータ経営研究所

株式会社NTTデータ経営研究所と連携し、市内企業及び市民に対し、SDGsを的確に情報発信するため、平成 30 年に7月に事業開始。

まずは、マスメディア自身のSDGsへの理解を深めるためのミーティングを複数回開催し、市内民放4局が連携したイベントの開催も視野に入れていく。なお、本事業は、株式会社NTTデータ経営研究所からの提案により、同社のモデル事業として実施するものである。

11. 包括連携協定(企業等)

平成 27 年2月から以下の企業と協定を締結し、静岡市及び企業・団体等が有する能力、資産等を活用し、相互に連携・協力して静岡市の地方創生を推進していく。

- ・佐川急便株式会社(平成 29 年 12 月 26 日)
- ・ネットワンシステムズ株式会社(平成 29 年 8 月 10 日)
- ・損害保険ジャパン日本興亜株式会社(平成 29 年 4 月 27 日)
- ・東京海上日動火災保険株式会社(平成 28 年 12 月 19 日)
- ・静岡英和女学院高等学校(平成 28 年 7 月 15 日)
- ・静岡県司法書士会(平成 28 年 3 月 17 日)

- ・しずおか信用金庫(平成 27 年 12 月 15 日)
- ・静岡信用金庫(平成 27 年 12 月 15 日)
- ・静岡銀行(平成 27 年 7 月 10 日)
- ・清水銀行(平成 27 年 7 月 10 日)
- ・静岡県宅地建物取引業協会(平成 27 年 2 月 23 日)

12. 包括連携協定(大学)

平成 24 年 11 月から以下の大学と協定を締結し、静岡市及び大学が有する能力、知的財産等を活用し、相互に連携・協力して地域の課題に適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展並びに人材を育成していく。

- ・静岡産業大学(平成 28 年 7 月 4 日)
- ・静岡英和学院大学・静岡英和学院短期大学部(平成 28 年 6 月 14 日)
- ・常葉大学(平成 28 年 6 月 14 日)
- ・東海大学(平成 27 年 2 月 17 日)
- ・国立大学法人静岡大学(平成 25 年 5 月 13 日)
- ・静岡県立大学(平成 24 年 11 月 22 日)

13. 災害時協力協定

平成 8 年 6 月から報道機関、郵便局、医師会など約 260 の民間事業者と協定を締結し、傷病者に対する応急処置、医療、応急生活物資の供給など民間企業と災害時に協力していく。

14. 公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム

教育力・研究力の一層の向上を図るとともに、地域社会の発展に寄与するため、平成 26 年 4 月に設置した。

主な構成員は、県内外の大学、県内自治体、教育委員会、行政書士会など、22 大学高等教育機関、18 の自治体及び 2 公共的団体(平成 29 年 4 月時点)であり、「教育連携」「共同研究」「地域貢献」「国際交流」「学生支援」「機関交流」「情報発信」に係る幅広事業を展開していく。

(自治体間の連携(国内))

1. 中部圏域の 4 市 2 町(島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町、川根本町)

中部圏域 4 市 2 町との間で連携中枢都市圏に係るビジョンを締結していることから、SDGs 推進の意義を共有し、行政区域にとらわれない 2030 年の圏域のビジョンを検討する。

そのビジョンの実現に向け、本市が策定する SDGs を活用した指標の評価検証の考え方を参考とすることで、圏域全体への本市の仕組みの展開を模索する。

2. 静岡県

県内市町とのネットワークを活用し、本市の取組の情報発信等を通じて、SDGs の理解促進、普及開発を図ることができる。

また、「TGC SHIZUOKA 2019 for SDGs(仮称)」の開催にあたっては、関連事業の企画立案・運営に係る検討体制を構築している。

3. 浜松市

定期的に開催している首長同士の会談(G2)の議題で、未来都市としてSDGs推進を協議することにより、人口規模や類似する都市機能を踏まえた国土縮図型のSDGs推進モデルを模索することができる。さらに、他の未来都市とともに、指定都市市長会議等で発信することで、特例市や中核市などへの協力、賛同を求めていく。

4. 全国市長会及び指定都市市長会

首長が集まる会議において、SDGs推進の意義や本市の取組を市長が発信するとともに、今後、全国に展開するうえでの課題等を発議、協議をしていく。また、SDGsを積極的に推進する自治体に連携・協力を呼びかけ、情報の共有やSDGsを全国展開するうえでの提案を取りまとめ、国等へ発信することを模索していく。

また、本市が最優先して取り組んでいる5大構想の中で、「健康長寿のまち」は、自治体共通の課題であることから、「健康長寿のまち」の推進をSDGsの目標及びターゲットで分類整理し、今後の取組を首長間で意見交換することにより、SDGsの理解促進を図りながら、推進していく。

5. 奄美市、龍郷町、宇検村及び大和村

市内清掃工場のごみ処理過程で生成される溶融スラグが、鹿児島県奄美大島の藻場再生に活用されている。溶融スラグの活用により、海藻が繁茂し、魚介類の繁殖といった効果も確認されており、交流を深めながら、駿河湾から太平洋を視野に入れた海洋保全に展開していく。

6. 岩手県山田町及び大槌市

窓口業務に携わる事務職員や土木等の技術職員を派遣するとともに、南海トラフの地震対策で蓄積された本市の自助、共助、公助の取組や知見を現地職員と共有することで、東北震災の早期復興を実現していく。

7. 相互応援協定を締結している自治体(国土交通省、東京都、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、長野県、全ての指定都市など)

食糧、飲料水及び生活必需品並びにその供給に必要な資機材の提供など災害時における協力体制を国、県、市町と構築し、脆弱性に配慮した災害対策を牽引していく。

(国際的な連携)

本市が最優先して取り組んでいる5大構想を通じて国際的な連携を行いながら、SDGsを推進していく。

1. JICAとの連携

諸外国からの派遣生を受け入れる体制について協議を重ねながら構築する。平成30年〇月にJICAから相談があり、現在、調整を進めている。

2. 国連の友との連携

SDGs推進を図るため、市民及び市内企業等へのSDGsの普及促進、教育及び学習機会の提供、世界に向けての情報発信に相互に連携して取り組む。なお、国連の友APとの連携にあたっては、平成30年5月16日に「SDGsの推進に向けた連携に関する協定書」を締結している。

3. 国際連合

国連NY本部SDGs推進会議で求められた本市のSDGs推進を通じた市内のSDGsの認知度調査結果やハイレベルポリティカルフォーラムで認められた「ハブ都市」としての活動内容について、国連に自発的な報告をしていく。

静岡市 SDGs 未来都市計画

令和2年8月 第二版 策定